

入間野小学校だより7月号

令和4年7月1日(金)

狭山市北入曾 980 TEL 04-2958-2718



～みんなが大切にされる学校～

校長 丸山 丁士

「**いるまの**」 「仲よくする子 考える子 やりぬく子」の育成

～魅力あふれる入間野小児童たち～

先月6日(月)に気象庁から「関東甲信地方が梅雨入りしたとみられる」との発表があったのも東の間、そのちょうど2週間後の先週20日には沖縄地方の梅雨明けが発表され、沖縄県は昨年より13日も早く(平年より1日早く)夏が到来。そして、25日(土)には群馬県伊勢崎市で最高気温40.1℃を記録し「6月の日本国内での40度到達は史上初」というニュースが巷を賑わせました。

さらに、27日(月)11:37には次のようなネットニュースが飛び込んできて、今あわてて追記しています。
「関東甲信と九州南部、東海で梅雨明け…関東甲信は史上最も早く」



昼頃からゲリラ雷雨となる予報が出ていた先月3日の金曜日。昼休みにグラウンドに出て空の様子をうかがうも、北西の方角はるか遠くにチャコールグレーの雲があったものの、稲光はもとより雷鳴もなかったので、耳をそばだてながら上空の様子を注視しつつ、子供たちの外遊びを続行。何事もなく“手洗いの歌”の放送が流れてきてホッとしたのですが、その2時間後の下校時刻が近づくと、雨風ともに徐々に強まり、辺りはだんだん暗く…。
「これは早く帰った方がいいな」と思い、安全主任に早めの下校を促す放送を頼んで外に出たとたん、気温が急激に下がるのを肌で感じました。「これはまずい」。放送を聞いて早めに帰路につこうとしていた児童を呼び止め、掌(てのひら)返しに「校舎内待機！」

くわばらくわばら。30分もしないうちに風雨・雷はおさまり、雲間にところどころ青空もそのくようになりましたが「まだまだ待機！」

“雷鳴が聞こえなくなっても20分は待機”は、命を守るためのスタンダードです(右QRコード参照)。

「お待たせしたね」

ようやく下校となった子供たちにそう言葉をかけると「クラスの友達といつもより長く話することができて楽しかったです!」「キレイな虹を見ることができてラッキー!」

東南東の空にかかる虹を眺めながら、あらためて「入間野小の児童っていいなあ」と感じられた黄昏(たそがれ)前のひとときでした。



17日(金)には、6年生のミニバス大会が南小・御狩場小を会場に開催されました。待機時間に仲間のプレーを熱心に応

援するだけでなく、相手チームの得点や美技にも拍手を送る入間野小の6年生たちを誇らしく思うと同時に、この日もまた本校児童の魅力に心惹かれました。そんな彼らに解散式で“バスケットボールの神様”マイケル・ジョーダンの言葉を紹介しました。『私は9,000回以上シュートを外し、300試合に敗れた。決勝シュートを任されて26回も外した。人生で何度も何度も失敗してきた。だから私は成功したんだ。』

(運動会など2学期の行事等については、次号(今月20日発行予定)でお知らせします)



〈5年生宿泊学習同行記〉(教頭筆)

「**挑戦、協力、自立**」～最後まであきらめない5年生 みんなで協力して挑戦し、最高の思い出を作ろう!～

当日の朝、5年生の素直で明るい「いってきます!!」の声を聞き、どれだけ楽しみにしていたのかが伝わってきました。

さて、ゆあての「挑戦」の象徴である伊豆ヶ岳登山。登山道に入ってしばらくすると目の前には急こう配の険しい道が……子供たちの口からは、「やばい、やばい」、「無理、無理」の連発、この先大丈夫かなと心配しましたが杞憂に終わりました。子供たちは、それぞれが意を決し登り始め、険しい道を楽しんでいる子、安全な道を探りながら登る子、効率よく近道を見つけて登る子、友達を気遣いながら登る子など、様々な挑戦の姿が見られました。また、「大丈夫か!」、「がんばれ!」という声が山の中で響き合い、「気を付けて」と友達に手をさしのべる姿が多く見られました。自然と出てくる「協力」する姿勢に5年生の優しさを感じました。最後の「自立」については、グループチャレンジではグループ内で生じた問題を自分たちの力で解決したり、宿舎では係分担の仕事を率先して行える子が多く見られたりと自立心が芽生えているように感じました。

今回の宿泊学習では、5年生は多くのことを学んできたと感じました。

当日までの体調管理や荷物の準備等ありがとうございました。